

令和5年度 入学式 式辞



1,194名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。和歌山大学を代表して心よりお祝い申し上げます。

また、門出となるこの日を心待ちにしてこられた新入生のご家族やご関係の皆さまにおかれましても、ご多用のところ皆さんの門出となるこの式にご臨席を賜りました来賓の方々におかれましても、心よりお慶びとお礼を申し上げます。

皆さんは今日、大学生という新たなスタートラインに立ちました。大学とは、義務教育段階・高等学校での学びを基礎に、さらに自らの力で飛躍させていく学びの場です。大学で得られるものは専門の知識や技能だけではありません。社会の要請を感じ取るセンサー、実践的な経験、論理的な思考、幅広い教養など、多岐に渡ります。

そのなかで、私が最も重要な力量で、いま、そしてこれからの社会が希求しているものは、「豊かな人間性、そしてコミュニケーション力」だと考えています。いま私はこの式辞を読みながら、和歌山大学で学ぶさまざまな背景を持つ学生について考えています。

たとえば、和歌山大学では多くの社会的マイノリティの学生が学んでいます。社会的マイノリティとは、一般に、少ない数の立場に属する人や集団を指します。その立場に属することによって、いわれのない偏見の対象になったり、または制度や仕組みが整備されていないことによって、さまざまな制約や損失を受けることがあります。そして、社会的マイノリティであることを理由に、仲間と本音で語ることにためらいを持つ学生がいることを私たちは認識しています。

今日、私から皆さんに二つのお願いがあります。それは、大学生活すべてにおいて本音で語り、楽しさや苦勞を共にし、笑ったり、泣いたり、感情を共感できる仲間をつくっていただきたいということです。そして、もう一つは、周囲の仲間の声なき声にも耳を傾けて欲しいということです。こういった経験を繰り返していくことで培われていく「思いやりの心」こそが、いま、そしてこれからの社会が希求している「豊かな人間性、そしてコミュニケーション力」そのものであると私は考えています。

さて、皆さんが入学された和歌山大学は、教育学部、経済学部、システム工学部、観光学部、そして社会インフォマティクス学環の四学部一学環からなる大きな総合大学です。和歌山大学での学びを志すZ世代の皆さんが、「大学とは何をするとところなのか、そして何をすべきなのか」という問いに対して、私たちはこのように答えたいと思います。

大学の責務は「教育」、すなわち人材の育成です。私たちは、和歌山大学での学びを志す皆さんを鍛え、社会に送り出す責任があります。そのために、私たちは明確なビジョンと戦

略をもって4年間に及ぶ体系的な教育課程を編成しています。また、和歌山大学には社会を創る学び、国際的な学び、そして地域での学びなど、皆さんのさまざまな学びを支援する仕組みを設けています。これらが四学部一学環の学びと組み合わせることによって、皆さんの学びの成果をさらに実感できると確信しています。

そして、大学での学びは教育課程のなかにとどまりません。先に述べた「豊かな人間性、そしてコミュニケーション力」が大学生活のなかで最も養われる環境は、スポーツや文化活動などのクラブ・サークル活動です。たとえば和歌山大学には体育会が28団体、文化部連合会が17団体、公認サークルが37団体、学生全組織委員会6団体と、さまざまなグループが活発に活動しています。それぞれが活動の理念を全うし、長年にわたって伝統を継承し続けている活動母体が数多くあります。

中学生・高校生で経験できなかった希望のクラブを見つけ、仲間と一緒に精一杯活動し、大学生活をエンジョイしてください。特に異なる専門職を目指す人たちが、同じ目的で知恵とマンパワーを結集し、新たに躍進していくさまは素晴らしいことだと思います。また、それは必要不可欠な取り組みだと思います。先輩、後輩、同期の仲間たちと一緒に新たな人間関係を構築してください。

和歌山大学では、学生のみならず教職員すべての構成員が「生きる力」を育むことを重視して大学を運営しています。「生きる力」とは、学習指導要領では「知・徳・体のバランスのとれた力」と表現しています。知とは、すなわち確かな学力のこと、これは基礎・基本を確実に身につけ、いかに社会が変化しようとして、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力のことです。徳とは、豊かな人間性を意味し、自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性のことです。さらに、体とは健康・体力を意味し、たくましく生きるため健康で過ごすことや体力をつけることです。



また、「生きる力」を身につけるための3つの柱になっているものは「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、そして「学びに向かう力・人間性」です。皆さんについては、基礎的・基本的な知識を学びながら、社会におけるさまざまな場面で活用し、身につけた技能を自分の経験などと関連づけて、いろいろな場面で活用していく習熟した知識や技能をさらに身につけていただきたい。思考力・判断力・表現力について、自分の考えを持ち、文章で表現したり、お互いの考えを伝え合ったりして、グループでの考えをまとめていくなかで身につけていただきたいと考えています。

私が最も重要な力量で、いま、そしてこれからの社会が希求しているものは、「学びに向かう力・人間性」すなわち冒頭で述べた「豊かな人間性、そしてコミュニケーション力」だと考えています。自身の感情をコントロールし、他者を尊重し、チームワーク、謙虚なリーダーシップ、「思いやりの心」を身につけてほしい、皆さんならきっとできると私は信じています。

和歌山大学は、豊かな自然環境と世界文化遺産に恵まれた和歌山県唯一の国立大学として、地域社会とともに地域の発展に寄与し、地域を牽引する人材育成を目指しています。「地域社会と共存共栄したバリューチェーンの創造」を実現させるために、学生と教職員、地域が共に育つ総合大学としての強みと特色を明確にして取り組んでいます。

四学部一学環を擁する和歌山大学の研究者は、2030年のSDGsの目標達成に寄与できるさまざまな研究テーマを持っています。これまで私自身も、専門である健康科学の分野において、地域社会とともに、高齢者の健康寿命を延伸するためのプログラム開発やヘルスプロモーションの取り組みを通じた地域づくりに粘り強く取り組んできました。

このように、和歌山大学の構成員は地域社会と連携し、地域課題に取り組むことにより地域社会との信頼関係を築いています。今後は皆さんと共に、共同・協力により得られた教育・研究の成果を結集し、地域のニーズに応じることで、地域社会と共存共栄したバリューチェーンの創造、すなわち学生が育ち、教職員が育ち、そして地域が共に育つ大学へと成長させていく強い熱意をもっています。大学には各分野の専門家である教員はもちろん、職員や学生も含めた多くの知が集まっています。特に大学教職員は積極的に学生の皆さんの能力を尊重し耳を傾ける努力を惜しんでいません。

日本の代表的数学者である広中平祐氏は、人工知能やロボットが急速に進化、普及する新時代を迎えようとするそんな時代に人がやるべきこと、考えることは何か。という問いかけのなかで、「世の中には、天才や秀才と呼ばれる人がいるが、ほんの数パーセント。でも社会を作っているのは、むしろそういう人たち以外の人々。新時代を切り開いていく創造力は、知識だけから生まれるものでも、経験が豊富な人にだけ生まれるものでもない。自分の特性を発見し、じっくり育み、自分なりの形にしようと努める人、それを「創才」と表現し、その「創才」こそが、新時代をリードしていく役割を担う重要な能力だと指摘しています。「創」は作る、初めて事を起こす、という意味です。新たな時代、社会の担い手となる皆さん一人ひとりの「創才」を集結し、和歌山大学の輝かしさに磨きをかけていただくことを心から期待しています。

最後に、皆さん一人ひとりの個性とその可能性を最大限に尊重し、これからも皆さんとの対話と共感をさらに深めていきたいと考えています。困難な状況の先に広がる輝かしい未来に向かって、ともに歩んでいきましょう。

ようこそ、和歌山大学へ。

以上をもちまして、新入生の皆さんの今後の飛躍を期待して式辞といたします。



令和5年4月5日
和歌山大学 第18代学長 本山貢